



有限会社 茅ヶ崎方式英語会 102-0073 東京都千代田区九段北1-6-6 カサイビル I
Tel/Fax 03-3288-2770 <http://www.chigasakieigo.com/> e-mail: info@chigasakieigo.com

はじめに

北京オリンピック開催まであとわずか、いろいろ問題はありましたが、楽しみにされていたりしゃる方も多いと思います。さて、今回は、いつも皆さんが学習されている教材のライターに執筆をお願いしました。

☞ C3ライターより

C3ライター HK

教材作成は10年くらい続けていますが、いつも「むきになって」書いてきた気がします。チーフコーディネーターの高橋さんから原稿が長過ぎると何度もお叱りを受けました。お叱りを受けてもパソコンに向うといつものめりこみ、ページ数が多くなりました。使う人の便宜を考える余裕がないのかも知れません。自分の満足のために書いているようでは教材作成者としては失格です。イニシャルはHKですが、道中志郎(MS)のペンネームでマンスリーでも書いています。教材で取り上げたあとに同じテーマを書く場合もあり、そっくり同じにしないようにとされていますが、容易ではありません。

教材でこれまで取り上げたのは、パレスチナなどの中東の問題や、ロシア、中国、朝鮮半島、アメリカなど諸外国や地域の情勢、日本の国内政局、領土問題、戦後問題など多岐に亘ります。経済の話題はあまり記憶がありませんが、中国のバブルやアメリカのサブプライムローンなど目を離せない問題は多いので、いつも勉強は欠かせません。

原稿作成のため日頃からインターネットで外国メディアの記事をよく読みます。日露首脳会談などロシア・メディアの英語版で論調を見るとおひとよしの日本が見えてきます。韓国の動きも、韓国メディアの日本語版が参考になります。アメリカは、大統領選や中東外交を追うのに、RealClearPolitics, Salon.com, Antiwar.com など多くのサイトで興味深い記事を読めます。大統領が外国の要人と会談したり主要な演説を行うとホワイトハウスのサイト(Welcome to the White House)は迅速に内容を伝えますが、日本は各省とも遅く不十分です。外務省も例外ではないのですが、意外だったのはネパールの制憲議会が王制を廃止した直後にこの事実がアップデートされて書き加えてありました。教材54(13-2)でネパール王制廃止を書いている最中です。

アンケートで私の文章が読みづらいと思われる方がいらっしゃるのが分りました。欲張って多くの事柄に触れようとした結果で反省しています。教材作成者として失格と言いましたが、私はできるだけ多くの事実を紹介したいと思います。私に関心を抱くテーマでは主張したいことは沢山ありますが、なるべく事実をして語らしめるよう工夫するのが良いと思っています。よく調べて、新聞には出ていないことも含めて "There's a lot more to it." という、そんな感じでパソコンに向っています。



👉 一緒に良い教材を作りましょう

C1～C3ライター 越村 美智子

茅ヶ崎方式英語会の会員、講師を経て十年前から教材作成を担当しています。最初の三年間は、愛の鞭を受けながらとても厳しい指導を受けました。その頃はほぼ毎日教材の事を考えていたと思います。その後の指導のお蔭もありやっと最近になって余裕が出てきましたが、教材を作成する事の難しさを毎回感じています。それでも今までの教材作成を振り返りますと、大変さよりも「書く事は面白い」で要約できると思います。随分勝手な考え方もかもしれませんが「書く人が面白くなければ使う人も面白くないだろう」と思っています。

テーマ選びや教材作成は協力校からのアンケートを参考にしながら「ニュースを書くのではなく教材を書く」を念頭に行ないませんが、Class 2のようにテーマを選ぶ範囲が決まっていますとなかなか見つからない場合もあり、新聞やネットを隅から隅まで探すため目も悪くなりました。しかし、社会の様々な問題を知る事は、心痛むことも多いのですが、自分自身の考え方や生き方にも良い影響を与えてくれています。逆にテーマ選びや教材作成が単純に楽しい時もあります。最近1年ほどのテーマの中から拾ってみますと、「ディープインパクト」「ライオンキング」「村上春樹」「河瀬監督」「渡辺貞夫」「歌麿」「バーナードリーチ」などです。ディープの時はニュースをずっと追いかけているうちにテレビに釘付けとなり大声で応援している自分がいました。ライオンキングは劇団四季に早速観に行き、村上春樹は友達とのディスカッションで熱くなりました。河瀬監督の「檣の森」は、ネットで上映している映画館を突き止めてはるばる見に行ったのですが、上映が予定より早く終わっていて自分の間抜けぶりに苦笑いしました。ナベサダのコンサートは大昔にどきどきしながら聞きに行った事を思い出しました。歌麿はネットで絵を探して教材チェックのネイティブに送り、英語表現を相談しました。学生時代に駒場の民芸館近くに住んでいましたのでバーナードリーチ、濱田庄司、柳宗悦などの懐かしい名前になわくわくと胸踊る気持ちで手引きを書きました。

教材は学んでいる皆さんのものです。ご意見・ご感想を沢山お寄せください。皆さんと私たち教材作成者と一緒に書いて初めて良い教材になると思います。

*久しぶりに教材ライターからのメッセージをお届けしました。今後もシリーズ化してお届けしてゆく予定です。教材の書き手を身近に感じていただければ幸いです。





協力校紹介 第39回

《目黒校》 東京都品川区

代表 菊池 涼子

私が茅ヶ崎方式を取り入れて、10年が経ちます。私はお子さんに英語を教えて20年以上経っています。元々リスニングを宿題にして大きな成果を挙げていて、大人の方の教材もリスニングに力を入れている物はないかと探しておりました。英語学習において高頻度でリスニングが取り入れられている教授法はインプットとして最適であり、単語を増やす最短距離であり、文脈、状況の中で正しく単語を習得できることを私は長い教授経験の中で知っています。そういう意味で茅ヶ崎方式は私が探していた最も素晴らしい教材なのです。私は生徒さんにテキストを勉強したら、そのテープを何回も自宅で聞いていただくようお願いしています。又、リスニングコンプリヘンションも茅ヶ崎方式を長く学習している生徒さんは、テープを聞いていく内に、次に来る単語が予測できるようになってくるとおっしゃいます。CNN、BBC等のニュースが聞けるようになり、新聞も読めるようになってくることがうれしいとおっしゃいます。ニュースにも興味をもてて、地球に住んでいる一員として意識も高まってきます。ニュースは多岐に渡る話題を扱っていることも、英語の力を多方面で深めていけるといふ利点があります。私はその週のニュースにあまりなじみがない時は生徒さんに聞いて知識をシェアしていただいています。私は自分を舵取り役と思っています。私の教室で学習している方は人数は多くはありませんが、皆さん長く続けて下さり、何か家族のように感じます。皆様がそれぞれの目的で学習なさり、英語力を向上させているという高尚な喜び、学習の楽しさを感じてくだされば私は本望です。皆さんに感謝し、又、このような素晴らしい教材を作ってくださっている茅ヶ崎方式英語会に感謝です。

ささやかな喜び

目黒校 C3会員 菅野 久美子

先日、ある国際会議に参加する機会がありました。「参加」といっても、単に聴衆の一人として、というかたちでしかなかったのですが、世界の各国からやってきた壇上のスピーカーの熱意あふれる講演に、大いに力と勇気をいただきました。一日目の全体会では、各スピーチに通訳がつかいましたが、二日目の分科会では、イヤホン型同時通訳機が希望者に貸し出されるという対応でした。そこで私は少し迷ったあと、翻訳機なしでリスニングに挑戦してみることにしました。茅ヶ崎方式で長く英語を聞き続けてきて、聞くということに抵抗はなかったし、今こそ、という自負もありました。

結果、周囲の人たちの反応と少しずれている自分を見いだすことになりました。つまり、少し早目に、笑ったりうなずいたりしていたわけで、講演者のメッセージをダイレクトに受け止めているという実感がありました。

もちろん完全に聞き取れていたわけではなく、語彙の面では、まだまだ自分のものになっていない語について電子辞書で確かめる必要がありました。それに、英語を母語としていない国の人々のスピーチの聞き取りは耳が慣れていないためか難しかったです。こちらの方は、関連分野の基礎知識を得るためにも、英字新聞などに普段から目を通しておくことが助けになるのかもしれないと思いました。

茅ヶ崎方式で学習を続けてきたことを、ささやかながら、このような形で生かすことができたことをうれしく思うと同時に、語彙力など、自分の弱点も意識しつつ、これからも英語学習に励もうと決意を新たにしているところです。

「英語が好き！」

単語を覚えるのが楽しくてたまらない高校生、職場から息せき切って駆けつける会社員、早目に教室に来てぎりぎりまで予習を続ける主婦メンバー、数人いらっしやる教師の方々は大半がご専門は英語以外の教科。

20年ほど前に始めた英語グループは、英字新聞や雑誌を使いながら教材選択に思考錯誤を重ねてきましたが、10年前の茅ヶ崎方式との出会いは大きな転換点となりました。

現在、C2からC4までを既に繰り返し学習したクラスは、新刊英語教本5に取組みながらもC3のリスニングの魅力を忘れがたく、欲張って(?)両方を学習しています。また、上級クラスでは、Time誌から関連記事を取り上げることもしばしばです。メンバーの方々から伝わってくる「英語が好き」、を共有しながら息長く勉強していきたいと思っています。

岐阜校 C3会員 渡辺 淳子

継続は力なり—この言葉を励みに、15年以上、茅ヶ崎方式を始めてから10年近く、何とかやめずに英語勉強会を続けています。英文科卒でもなし、ダーリンは外国人ならぬ日本人、パスポートはまっさらのまま、フルタイムの仕事を持つ主婦の片手間での英語学習は、学生時代のようにはいきません。

それでも、時事英語に接する機会が増え、日本の新聞で茅ヶ崎方式との関連記事が目にとまると精読するようになり、少しずつ国際的視野が広がってきたことが実感できます。又、結論を初めに述べてから根拠を挙げていくという英語的発想も身につきました。日本語では曖昧で意味不明の事実関係が、茅ヶ崎方式の英語例文を通して論理的にはっきりすることもあります。

厳しくも温かい先生、気心の知れたクラスの仲間を心強い味方として、更なる英語力向上、視野の拡大、脳の活性化(ボケ防止?)を目指していきたいと思っています。



英語会からのお知らせ

* 松山薫英文添削道場

茅ヶ崎方式創始者松山薫による、1年限定の添削道場です。1回2コース各5名限定ですが、協力校の講師、会員は優先されます。ネット上で添削を受けた方のお名前は公表されません。グループ共同作品を送ることも可能です。英文ライティング・ブラッシュアップの絶好のチャンスをご利用下さい。URLは <http://www.matsuyama-shigeru.com/> 当会HPからもリンクされております。

* Book-0

「茅ヶ崎方式英語教本 Book-0」初歩の再学習が、この秋と来春2冊に分けて、発売される予定です。Book-0を基本教本とする新しいコースを現在検討中です。ご期待下さい。

あとがき:国際会議で英語力を実感された会員さん、10年近く茅ヶ崎方式の学習を継続されていらっしやる会員さん。協力校の皆さまの声が教材ライター・作者の励みになります。教材について、学習について、その他、何でも、お便りをお寄せ下さい。